


人が動く、国土が躍動する。
国土交通省



みなと しみず

発行
中部地方整備局
清水港湾工事事務所
清水港事務所
御前崎港事務所
下田港事務所

清水港湾工事事務所80周年 記念講演会「これからの『みなと』を考える」を開催



竹村健一先生のご講演



東恵子先生のご講演



〔清水港湾工事事務所
八十年のあゆみ〕

80th Anniversary Memorial Lecture
これからの『みなと』を考える

第一部 「市民参加によるみなとづくり」
清水港事務所 御前崎港事務所 下田港事務所
清水大学短期大学部 清水市立清水高等学校 清水市立清水中学校

第二部 「これからの日本」
清水大学短期大学部 清水市立清水高等学校 清水市立清水中学校
清水市立清水小学校 清水市立清水幼稚園

〔講演会案内用チラシ〕

大正10（1921）年に内務省横浜土木出張所、清水港修築事務所として発足した当事務所は、今年80周年を迎えることができました。

これを記念し、これまでお世話になった地域や関係者の皆様に感謝申し上げ、お礼の意味を込めて、10月26日に「80周年記念講演会・これからの『みなと』を考える」（後援：（財）港湾空港建設技術サービスセンター）を開催いたしました。

講演会場の清水テルサホールは、ご応募いただいた一般市民の皆様などで満席となる盛況で、小野文雄所長の挨拶、宮城島弘正清水市長のご祝辞の後、第一部として、東海大学短期大学部助教授・東恵子先生による「市民参加によるみなとづくり」、第二部として、評論家・竹村健一先生による「これからの日本」と題したご講演をいただきました。

また、講演会に先立ち、60名ほどの関係の皆様には、新興津地区国際海上コンテナターミナルなどの整備を進めている清水港内を、清水港湾建設工事安全協議会のご協力で船上から見学していただき、さらに、講演会終了後は、先輩OBの皆様による実行委員会により「祝賀会」が開催され、200名余のご出席の皆様からお祝いをしていただきました。

皆様、ありがとうございました。

八十周年記念行事
特集

当日開催された行事を紹介
します。

①清水港内見学会

当日は、朝から好天に恵ま
れ、12時30分から1時間の行
程で清水港内の現場見学会を
客船ベイ・プロムナード号に
て行いました。参加者は、
尾見博武中部地方整備局副局
長を始め、当事務所にゆかり
のある60余人の方々に参加
いただきました。コースは、
日の出埠頭から富士見埠頭・
折戸湾・貝島地区・三保地区
・外港防波堤・新興津岸壁工
事・袖師埠頭・江尻船溜を静
穏な波浪の中、所要所要に説
明を入れ、港全体を十分堪能
していただきました。

〔見学状況(船上)〕



②記念講演会

〔小野文雄所長挨拶〕



本年は21世紀のスタートの年
であり、1月6日に省庁再編に
より、運輸省、建設省、国土庁、
北海道開発庁の4省庁による国
土交通省が発足したし、これか
らの港湾、みなとのあり方等に
つきましても、本年3月に国土
交通省港湾局において「新世紀
港湾ビジョン」が策定されまし
た。

今後はこの方向を基に事業を
進めてまいります。国と地
域のパートナーシップによるみ
なとづくりとの副題にもあり
ますように、国と国民・地域と
の連携が強く示されており、
80周年を迎えた当事務所とい
えども、地域発展の一役を
担う港湾の事務所として、更に
前進、発展し、皆様に期待され
るよう頑張りますので、引き続
きご支援をお願い申し上げます。

〔宮城島弘正清水市長祝辞〕



清水港は一昨年開港百周年を
迎えました。工事事務所は開港
から20年後に生まれたことにな
りますが、清水は何と言っても
みなと町、みなとと共に発展し
てきましたし、これからも変わ
りません。それぞれの町には、
これがある、ここだから、ここ
でなければといった特性があり
ます。今日は大正10年ごろと昭
和10年代の清水の古い地図を持
つてきましたが、港湾につなが
る形で道路や鉄道などのインフ
ラが整備されて来ました。

工事事務所も今年新しくなり
ましたが、清水港の新しい港湾
計画ができて、事務所も新しく
なり、地域の発展につながると
いうことでこれまで来ています。
公共事業の逆風の中で、みな
ととそれを支えるインフラの整

備は必要です。

これからは女性の力も大きい。
「事務所80周年」でこうした
機会を得られてありがたいこと
です。

〔1講演〕

一般参加を含めた入場者は、
ほぼ満席の約50名となる中で
第一部は東恵子先生により2時
30分から始まり、「レディズ・
マリンフォーラム」から始まり、
清水の美しいみなとづくり、
実施事例を紹介しながらの「清
水港・みなと色彩計画」、清水
で設立した「みなとづくり女性
ネットワーク」による女性フォ
ーラム開催状況などについてパ
ワーポイントを使い、熱の入っ
た1時間の講演をしていただき
ました。第二部は竹村健一先生
により3時30分から始まりまし
た。物流における港湾の重要性
や水深パースの必要性、諸外
国と日本の港湾の比較やこれか
らの日本の将来像について講演
していただきました。特に清水
港についての感想や今後期待す
る点についてのご発言があり、
あつという間の一時間の講演で
した。

③祝賀会

記念講演会終了後、5時から
祝賀会が開催されました。



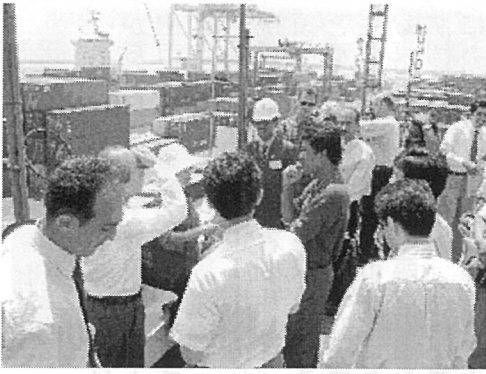
〔村田副局長祝辞〕

主催者を代表して祝賀会実
行委員会・吉村眞事会長の挨拶
の後、村田進中部地方整備
局副局長、望月義夫衆議院議
員、山口修静岡県土木部長
(石川嘉延静岡岡県知事ご祝辞
代読)、宮城島弘正清水市長
からご祝辞をいただきました。
続いて当事務所を代表し
て小野所長がお礼の言葉を述
べ、吉村権財茂御前崎町長か
ら乾杯のご発声をいただき歓
談しました。閉めは実行委員
会・中村豊副会長によりお開
きとなりました。
これまで清水港湾工事事務
所に関わってこられた皆様が
一同に会し、懐かしい顔ぶれ
が揃い思い出話に花が咲
き、賑やかな会となりました。

今年もJICA 研修生が来清

国際力事業団（JICA：Japan International Cooperation Agency）が政府の開発途上国に対する技術協力の一環として実施する集団研修「第38回港湾工学コース」の研修生（14ヶ国15名）が、7月24日から25日にかけて清水での研修に参加しました。

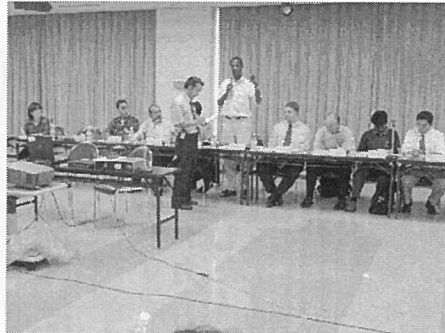
7月24日の午前中は袖師第1埠頭にあるコンテナターミナルの現場視察、午後からは「港湾工学セミナー」（国土交通省中部地方整備局主催）を開催し、研修生の代表として2名が自国の港湾について発表を行い、日本側からは清水港の現況からはじまり、港湾構造物の劣化及び補修対策や名古屋港の浚渫工事



〔視察状況〕

と固化処理技術について発表を行いました。
25日の午前中は当所の監督測量船で清水港内を視察し、午後は東海大学海洋科学博物館を見学しました。

〔セミナー状況〕



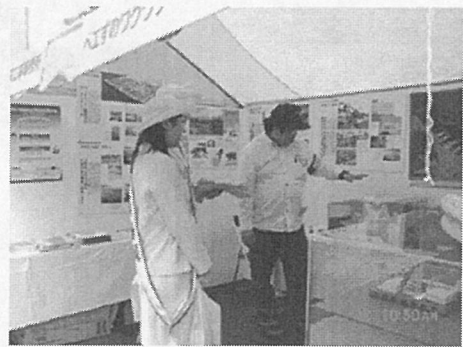
事業PR活動

事務所の事業紹介を目的に2つのイベントに参加しました。

一つ目は9月22日（土）、静岡市内の青葉イベント広場で静岡建設業協会青年部主催の「美しいまちづくりデー&市民ふれあいイベント」に出展しました。国の機関では静岡国道、静岡河川両工事事務所と当所が参加し、当所3名の職員で重力式岸壁の築造工程の模型と新興津地区コンテナターミナル関連のパネル及び清水港空中写真を展示しました。晴天の中、当所ブースには大人・子供併せて260名が立ち寄り、当所職員の説明に熱心に

耳を傾ける来場者の姿がありました。

〔来場者に説明〕



二つ目は10月18日（木）、同青葉イベント広場で（社）静岡県建設業協会及び（社）静岡県土木施工管理技術会主催の「第14回くらしと土木展」に出展しました。国の機関から県内の中部地方整備局7事務所が参加し、

3名の職員により前回同様の模型とパネルを展示しました。雨天のせいか来場者は少なく、当所ブースへの来場者は120名でしたが、前日も配付した「ベイズシール」は女性に好評でした。二つとも当所の参加は今回が初めてですが、今後もこうしたイベントに積極的に参加し、事業PRに努めていきたいと思えます。

〔当所出展状況〕



防災訓練

〔非常電源装置の説明〕



今年には21世紀初の、中部地方整備局の一員として初の、又日の出庁舎新築後初の防災訓練でした。加えて防災の日の9月1日が土曜日ということもあり、9月3日から4日にかけて、本局の訓練と工事事務所独自の訓練を併せて行うということになりました。

内容は、M8クラスの地震を想定した予知対応型と突発地震発生型で、情報伝達訓練、避難訓練、被災状況調査訓練、協定している団体等の出動要請訓練を行いました。

『明日起きてもおかしくない』という石橋発言から4半世紀以上経過し、当事務所においてもその地震に耐え得る庁舎の新築や補強をし、防災用品を備え、訓練を繰り返し、その日に備えております。

天皇・皇后行幸啓

天皇、皇后両陛下は8月27日から31日まで、ご静養のため下田市にある須崎御用邸に滞在されました。

両陛下は27日午後1時16分に伊豆急下田駅に到着され一旦、須崎御用邸で休憩を取られたあと噴火災害で三宅島住民が避難生活を続けている同市柿崎にある東京都北区立下田臨海学園を訪問され、住民一人一人に丁寧にお声をかけられ、話に聞き入られておりました。

これに関連して両陛下は下田港に避難係留されている三宅島の漁船もご見学されました。下田港には現在14隻の漁船が避難係留しており、うち6隻がプロック製作等のため当事務所が所有している福浦にある外防波堤作業基地岸壁に係留して下田近海にて操業されています。

両陛下はその作業基地岸壁に係留している漁船をご覧になるため基地内を通られ、岸壁前で車から降りられて、避難係留中の漁船を丁寧にご覧になられました。

三宅島全島避難指示から間もなく1年余が経過します。しかしながら火山ガス放出は止まることなく、島民が島に戻って暮らせるめどは未だ立たず、現在も避難生活を余儀なくされていますが、住民の皆さんには陛下から励ましのお言葉をいただ

たことで一生忘れることのない感激の一日になったことでしよう。

〔作業基地内での両陛下〕



「ベエズ」が活躍！
パンフレット・
シール・PRカード
が完成しました

これまで各港毎に作成してきたパンフレットを今回1冊にまとめました。航空写真でみなと全体を見ることができ、貨物量などの資料も掲載しています。また、当事務所のイメージキャラクター「ベエズ」がシールとPRカード(名刺)になりました。事業概要、ベエズシールとともに当事務所で無料で配布しています。

御前崎
ふれあい映画会

御前崎港において、8月24日(金)、ケーソン壁面をスクリーンとして利用した野外映画上映会を開催しました。

昨年引き続き2回目となるこのイベントは、港湾事業のPR及び地域交流の活性化を主眼におき、港湾工事関係者が一体となり企画実行したものです。関係者以外は立入禁止とされているケーソン製作ヤードの一面を会場に、星空のもと野外上映された映画はデイズニーの「ダインソー」。

前年度開催時の反省点をふまえ、開催時期や時間、上映演目等、検討を重ねて臨んだ結果、



800人をこえる参加者を集める盛況ぶり。夏休み最後の時期とあって家族で来られた方が多く見受けられました。また、多くの方々は映画もさることながら、スクリーンとして利用したケーソンの大きさにも驚き、大いに関心を惹かれたようです。そのため、上映後に行った、ケーソンや港湾施設の説明にも熱心に耳を傾けていただくことができました。

今後も継続して同上映画が実施されていけば、より地域に密着したイベントとして根付き、さらに発展する可能性を強く感じました。

清水港内
見学・視察

7月16日、東海大学短期
大学部学生24人参加



〔上映状況〕

8月29日、興津埠頭対策連絡会・興津住環境対策特別委員会(大村誉将会長)18人参加

